

# 地 理 歴 史

## 世界史 A, 世界史 B

### 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 世 界 史 A

##### 1 前 文

「世界史 A」の追・再試験については、本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け、出題方針、内容および難易度等について考察したい。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

##### 2 内 容・範 囲

###### (1) 評価の観点

年度・出題数 分野	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
政治史	15	( 50.0 % )
社会経済史	12	( 40.0 % )
文化史	1	( 3.3 % )
複数分野に関わる	2	( 6.7 % )
合 計	30	( 100.0 % )

###### (2) 分野別の出題数・出題率

年度・出題数 設問形式	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
主に知識・技能を評価するもの	19	( 63.3 % )
主に思考・判断を評価するもの	11	( 36.7 % )
合 計	30	( 100.0 % )

\* 知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は、評価・分析委員会の判断による。

###### (3) 時代別の出題数・出題率

年度・出題数 時代	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
古代史	0	( 0.0 % )
中世史	1	( 3.3 % )
近世史	2	( 6.7 % )
近代史	5	( 16.7 % )
現代史	15	( 50.0 % )
[うち戦後史]	4	( 13.3 % )
複数時代混合	7	( 23.3 % )
合 計	30	( 100.0 % )

###### (4) 地域別の出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
西欧・北米	10	( 33.3 % )
東欧・ロシア	4	( 13.3 % )
東・内陸アジア	8	( 26.7 % )
南・東南アジア	1	( 3.3 % )
西アジア・アフリカ	3	( 10.0 % )
中南米・オセアニア	0	( 0.0 % )
複数地域に関わる	4	( 13.3 % )
合 計	30	( 100.0 % )

中世(5c~14c)・近世(15c~17c)・近代(18c~19c)・現代(20c~)を判断の目安とする。

#### 第 1 問 歴史の動きとモノや習慣との関係

問 1 文章中の空欄に入れる人物について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問 2 遊牧民の諸国家について述べた文について、年代の古いものから順に正しく配列されたものを選択する問題。包括的知識を問う良問である。文あ~うのそれぞれの文に、具体的な遊牧国家名を示さない工夫が評価できる。なお、例えばトルキスタンの成立やトルコ人のイ

スラーム化と西方への民族移動について述べたものにするなど、文あ〜うの関連性をより高められれば、トルコ系民族が世界史に与えた影響について考察させるような問題へと発展させられたのではないだろうか。

問3 文章中の空欄に入れる語と下線部について述べた文として、正しい組合せを選択する問題。会話文の読み取りから染付と特定した上で、ティムール朝の文化とユーラシア東西の盛んな交流との関係性を考察させる点で、思考力・判断力・表現力等を問う良問である。

問4 会話文中の空欄に入れる人物と、その人物について述べた文として、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問5 綿をめぐる歴史について、誤っている文を選択する問題。綿花・綿製品の生産や貿易に関わる包括的知識を問う問題。

問6 アジアやアフリカの政治指導者について述べた文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。会話文の読み取りを基に、ムスタファ＝ケマルが行った服装の改革とローマ字の採用という二つの改革における共通性について考察する力を求めている、思考力・判断力・表現力等を問う良問である。

問7 文章中の空欄に入れる王朝の歴史について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問8 文章中の空欄に入れる都市の位置と、中国に対するイギリスの政策に関して述べた文について、正しい組合せを選択する問題。地理的理解を含めた、19世紀後半の中国史に関する包括的知識を問う問題。

問9 纏足の歴史について、適当な文を選択する問題。資料1・2から読み取った情報を基に、知識を踏まえた上で、蘇州における19世紀末での纏足の状況について推論を求める、思考力・判断力・表現力等を問う良問である。

## 第2問 歴史上の国民や国家

問1 文章中の空欄に入れる宣言と語句として、正しい組合せを選択する問題。「国民」についての概念的理解を問う、知識・技能の良問である。

問2 三つの図について、年代の古いものから順に正しく配列されているものを選択する問題。政治権力と国民の関係性についての概念的理解を基にその変容を考察させる、思考力・判断力・表現力等を問う良問である。図の説明を極力省く工夫がみられると更なる良問へと発展させられたのではないだろうか。

問3 ナチ党が第一党になった時期について、年表から正しいものを選択する問題。ナチ党の大衆宣伝に関する包括的知識を問おうとする出題意図は評価できるが、事実的知識だけで解答できてしまう点が惜しまれる。時期を問うのではなく、ナチ党を第一党に押し上げた要因として考えられる要素としてメディアやプロパガンダを考察させるような問題作成の方向性も考えられたのではないだろうか。

問4 梁啓超の日本への亡命の要因となった出来事とその内容について、正しい組合せを選択する問題。19世紀末の中国における政治改革について包括的知識を問う問題。

問5 文章中の空欄に入れる文について、適当なものを選択する問題。選択肢に改善の余地があるが、資料や会話文の読み取りを基に、複数の歴史的事象を比較・考察させる、思考力・判断力・表現力等を問う良問である。

問6 梁啓超の立場について、適当な文を選択する問題。資料や会話文から読み取った情報を基に、知識を踏まえて考察させる、思考力・判断力・表現力等を問う良問である。

## 第3問 20世紀を動かした政治家

- 問1 ドゥーマがロシアで開設された経緯について、適当な文を選択する問題。事実的知識を問う問題。
- 問2 文章中の空欄に入れる二人の人物と下線部に対するアウアーの評価に関して述べた文について、正しい組合せを選択する問題。資料を丁寧に読み取った上で、ロシア革命に関する知識を踏まえて、ボリシェヴィキに対するアウアーの評価について考察することを求める、思考力・判断力・表現力等を問う良問である。
- 問3 1917年4月の状況について、適当な文を選択する問題。資料から読み取った情報を整理した上で、ロシア革命の展開に関する包括的知識を求める、知識・技能を問う問題。
- 問4 文章中の空欄に入れる二つの国名について、正しい組合せを選択する問題。資料とリード文から読み取った情報を踏まえ、二つの世界大戦に関する包括的知識を問う問題。
- 問5 下線部に含まれる地域について、正しい位置を選択する問題。地理的理解を含め、イタリア統一に関する包括的知識を問う問題。問4との連動性が意識されている点が評価できる。
- 問6 ムッソリーニが植民地化を目指して侵略したアフリカの国または地域の歴史について、適当な文を選択する問題。列強のアフリカ進出に関する包括的知識を問う問題。
- 問7 ヤルタ会談に新たに参加した人物について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。
- 問8 サブリード文の空欄に入れる二つの語について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。問われた知識同士の関連性を高める工夫があると、包括的知識を問うことができたのではないだろうか。
- 問9 EC・EUに加盟した国を示した三つの図について、年代の古いものから順に正しく配列されているものを選択する問題。知識・技能を問う良問である。EC・EUの拡大について、単に国名を配列させるのではなく、地図を配列させることで地理的理解も含めて問うという点が評価できる。
- 第4問 統計資料から把握する世界経済の歴史的变化
- 問1 表から読み取れる事柄と、その要因として考えられる事柄について、正しい組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。読み取った情報を基に、知識を踏まえて、事象相互の関係を考察することが求められる。
- 問2 下線部について、誤っている文を選択する問題。「革命」という言葉を使わずに社会経済史上の大きな転換点について述べるなどの工夫が見られる、包括的知識を問う問題。
- 問3 グラフから立てられた問いと問いに対する仮説中の空欄に入れる二つの語について、正しい組合せを選択する問題。グラフの読み取りや知識を踏まえた上で、論理整合性を基に仮説の根拠について推論を求める、思考力・判断力・表現力等を問う良問。
- 問4 文章やグラフの空欄に入れる二つの国について、正しい組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。会話文やグラフ1から植民地と宗主国との経済的な結び付きについて読み取り、その情報を他のグラフに援用させ、対象となる国について考察することを求めている。
- 問5 生徒がまとめたメモの正誤について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。
- 問6 文章中の空欄に入れる国について、正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。他の三つのグラフの読み取りを踏まえてグラフ4を読み取り、その読み取った情報を基にアフリカにおけるポルトガルの植民地を推論することを求める点で良問である。小問同士の連動性が高い点も評価できる。

### 3 分量・程度

大問数が一つ減って4問構成となったが、設問数は計30問で昨年度と同様であった。分量としては受験者が余裕を持って時間内に解くことができる適切なものであり、全体的な難易度も大学入学希望者の学力を測る上では標準的であったと考える。中間ごとに資料とそれに対する説明文や会話文などが盛り込まれる出題が今後も続いていくと思われるが、分量については今年度を一つの基準として、適切なバランスを維持した問題作成が継続されることを期待したい。

問題全体を通して、思考力・判断力・表現力等を問おうとする意欲的な出題が随所に見られた。**3**は、空欄の前後の文から染付であると判断させるとともに、モンゴル帝国時代に整備された交易ネットワークと関連付けて考察させる良問である。**9**は、纏足についてそれぞれ異なる立場から述べられた資料1・2から読み取った情報を整理した上で、19世紀末の蘇州では未だに纏足の風習がのこっていたことを推論させる良問である。**14**は、正解以外の選択肢が全て誤文であり、事実的知識だけで解答することができた点に改善の余地は残るが、資料の読み取りを踏まえ、「中国」という語が持つ相対性に着目して考察させ、概念的理解へと至る良問である。**15**は、梁啓超が民族意識の起点を「中国」という呼称に求めたことを資料から考察させた上で、列強による中国分割が進んでいく中で、ナショナリズムが強く意識されていたことに気付かせる良問である。**17**は、資料の読み取りを基に、ロシア革命が展開していく中のケレンスキーとレーニンの相関や、ポリシェヴィキに対するアウアーの評価について考察させる良問である。**30**は、グラフ1～3の共通性に着目して、グラフ4で示される国がポルトガルとの経済的な結び付きが強いことを捉え、ポルトガルがアンゴラを植民地にしていたことに気付かせる問題となっている。ポルトガルがアンゴラを植民地としていたことは、確かに受験者にとっては細かい知識だが、資料を比較し、その共通性に着目して考察する中で新たな知識を獲得していくプロセスを設問として提示できている点で優れた良問である。

### 4 表現・形式

文献資料やグラフを基に生徒と教師が対話している授業の一場面から出題したり、絵画やポスターなどの図像資料や地図を年代順に配列させたりするなど、問題作成上の工夫が随所で見られた。また、資料や会話文をしっかり読ませた上で解答させようという意図や、中間ごとのまとまりを意識した問題構成という点も、出題の一つの基準となってきたように思える。

その中でも**27**、**30**は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、歴史総合や世界史探究における授業の指針となるような設問として特に評価できる。**27**は、生徒が具体的な資料を通じて歴史的事象に対して問いを表現し、その問いに対する仮説を立てるといった探究的な歴史学習の場面を想定したものであり、**30**は、生徒がグラフを比較・検討する中で共通性に着目し、考察を通して新しい知識を獲得するという具体的な場面からの出題であった。ただし、**27**は、グラフや前後の文の単純な読み取りだけで正解を導いてしまう点では改善の余地を残す。例えばグラフから立てられる問いとして適切なものを選択させたり、問いに対する仮説を複数にしたりするなどして、歴史的思考力を問う設問へと発展させられる可能性があったと考える。また**30**についても、知識・技能を問う**29**を、例えば現在のアフリカ諸国における植民地時代の経験の明暗を考察させるような問題として連動させることができれば、課題解決に向けた構想する力を問う設問へと昇華できたのではないだろうか。

また図像資料の提示や下線部を付す場所などを工夫すれば、更なる良問へと発展させられる可能性があったものとして、**6**と**10**が挙げられる。**6**は、20世紀のアジアやアフリカにおける政

治指導者たちの服装を示す写真を提示できれば，それぞれの政治指導者の立場を考察させる設問へと発展させられた可能性があったのではないだろうか。また10は，「国民化」と大衆の関わりについての概念的な理解を問おうという意図は評価したいが，結果的に会話文の読み取りや事実に基づく知識だけで解答できてしまうため，例えば資料の最後にある，ファシズム台頭期の国民主義を支えた精神的基盤としての健全な市民的価値が，どのように「アウトサイダー」を捏造し排除していたかについて，具体的な資料を基に考察させるような設問にすることも可能だったかもしれない。

## 5 ま と め（総括的な評価）

全体を通じて，歴史的な事象についての包括的な知識や概念的な理解，資料から必要な情報を読み取る技能，特徴や変容，事象相互の関連を多面的・多角的に考察させるような，思考力・判断力・表現力等を問う設問がバランスよく配置されていたという印象を受ける。また事実に基づく知識を問う場合でも，資料や会話文などから必要な情報を読み取る技能と合わせて問うことで，単純な暗記学習では対応できない設問となっている。今後もこれらの傾向を踏襲しつつ，時代の特徴を問うなどの概念的な理解や，歴史的な事象が現れるプロセスを考察させるような問題を増加させていって欲しいと思う。

また問題を評価していく中で，普段の授業実践の延長線上に共通テストがあるということを確認することができた。その意味で今年度の「世界史A」は，27，30のように，歴史的な事象に対して生徒自ら問いを表現し，その問いに対する仮説を立てるような学習活動や，具体的な資料を基に歴史を解釈し，議論し合う中で生徒が新しい知識を獲得していくような学習過程などを意識した授業改善が高等学校の世界史教育で広がっていくことにつながる出題であったと評価したい。それとともに，「世界史A」という科目は次年度で最後となるため，今年度の方向性を継続しつつ，新課程の「歴史総合」や「世界史探究」につながるような問題になることを強く期待したい。

最後になったが，様々な要因に目配りしつつ，多様な受験者にも対応しうる入試問題の作成に心を配り，多大なエネルギーを使って問題を作成された委員の皆様の御苦勞に感謝申し上げます。

# 世界史 B

## 1 前 文

「世界史B」の追・再試験については、本試験の前文で言及した受験者数や平均点等についての分析は避け、出題方針、内容および難易度等について考察したい。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

## 2 内 容・範 囲

### (1) 評価の観点

設問形式	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
主に知識・技能を評価するもの	23	( 69.7 % )
主に思考・判断を評価するもの	10	( 30.3 % )
合 計	33	( 100.0 % )

### (2) 分野別の出題数・出題率

分野	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
政治史	20	( 60.6 % )
社会経済史	9	( 27.3 % )
文化史	0	( 0.0 % )
複数分野に関わる	4	( 12.1 % )
合 計	33	( 100.0 % )

\* 知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は、評価・分析委員会の判断による。

### (3) 時代別の出題数・出題率

時代	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
古代史	3	( 9.1 % )
中世史	2	( 6.1 % )
近世史	10	( 30.3 % )
近代史	3	( 9.1 % )
現代史	10	( 30.3 % )
[うち戦後史]	3	( 9.1 % )
複数時代混合	5	( 15.2 % )
合 計	33	( 100.0 % )

### (4) 地域別の出題数・出題率

地域	令和5年度	
	出題数	( 出題率 )
西欧・北米	16	( 48.5 % )
東欧・ロシア	4	( 12.1 % )
東・内陸アジア	7	( 21.2 % )
南・東南アジア	2	( 6.1 % )
西アジア・アフリカ	1	( 3.0 % )
中南米・オセアニア	1	( 3.0 % )
複数地域に関わる	2	( 6.1 % )
合 計	33	( 100.0 % )

中世(5c~14c)・近世(15c~17c)・近代(18c~19c)・現代(20c~)を判断の目安とする。

### 第1問 世界史上の女性権力者

問1 文章中の空欄に入れる人物の治世に起こった出来事について、適当な文を選択する問題。  
知識・技能を問う問題。

問2 文章中の下線部に関連する出来事について、適当な文を選択する問題。事実的知識を問う問題。

問3 大学生がゼミで発表するという設定で、題材として適当なものを選択する問題。「16世紀以降に活躍した、君主でもその配偶者でもない女性」という情報を読み取った上で、知識を基に、人物を類推する思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問4 文章中の空欄に入れる人物の治世に起こった出来事について、適当な文を選択する問題。  
知識・技能を問う問題。

問5 「西太后が実権を持ち始めて以降の時期」に、清朝が行った事柄について、適当な文を選ぶ問題。事実的知識を問う問題。「実権を持ち始めて以降の時期」がいつ頃を指すのかが、やや分かりづらく受験者は戸惑ったかもしれない。

問6 文章中の空欄に入れる人物名と、下線部が示す出来事に関連した資料の正しい組合せを選択する問題。八・一宣言から西安事件に至る歴史事象に関する背景などの包括的知識を問

う点で良問であり、さらに複数の資料から適当なものを選択するなど、技能を問う点でも良問。

## 第2問 世界史上における君主支配の秩序について

問1 文章中の下線部について、適当な文を選択する問題。事实的知識を問う問題。

問2 ヨーロッパにおける君主について、適当な文を選択する問題。事实的知識を問う問題。説明文の選択肢が、「聖イシュトヴァーンの王冠とハンガリー王国」についての文章との関連がやや薄く、工夫がほしい。

問3 文章から読み取れる内容と、空欄に入れる人物について正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。文章全体から読み取った情報を整理することを求められる点で、技能を問う良問。

問4 本文中の出来事と文あ・いの年代について、古いものから順に正しく配列されたものを正しく選択する問題。知識・技能を問う問題。三つの歴史的事象と文章の関連、また、三つの歴史的事象相互の関連がもう少し明確になると、文章を活用した思考力・判断力・表現力等を問う問題になったのではないか。

問5 文章中の空欄に入れる王朝名（国名）と、下線部の説明として適当な文の正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。空欄と下線部の相互の関連性がもう少し明確になると、南アジアや東南アジアに関する社会的状況についての包括的な知識を問う問題になったのではないか。

問6 文章中の空欄に入れる語句として、適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。ヒンドゥー教徒であるヴィジャヤナガル王が「ヒンドゥー王たちの中のスルタン」という称号を利用する意味について、文章全体を踏まえ、考察した上で、スルタンの概念的理解に至る思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問7 文章中の空欄に入れる戦争の原因について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。「フランス東部」など地理的理解を含めた包括的な知識を問う問題になっている。

問8 「絶対王政」の体制下で即位した国王達の治世に起こった出来事について、適当な文を選択する問題。事实的知識を問う問題。単に国王の年代と事績で判断する問題ではなく、絶対王政に関連した選択肢にすると包括的な知識を問う問題になったのではないか。

問9 資料から読み取れる内容と、資料の内容を受けて起こった出来事の正しい組合せを選択する問題。シャルル7世の王令についての内容と、その後の動きの関連性が明確で、資料が活用されている。資料から読み取った情報を整理した上で、絶対王政を概念的に考察する。思考力・判断力・表現力等を問う問題。

## 第3問 歴史に与えた人の移動の影響

問1 文章中の空欄に入れる国の歴史について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 明の朝貢国の歴史について適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。明の朝貢国に該当する選択肢を特定する必要がある、明の朝貢国についての包括的な知識が求められる。

問3 朝鮮から明への朝貢使節に関連して、出発地の都市の位置と、目的地の都市の歴史の説明について、正しい組合せを選択する問題。使節の経路に関する情報を丁寧に読みとった上で、出発地の都市の位置を地図上で示す技能が求められるだけでなく、目的地が北京であることを判断する点で、知識・技能のより適切な活用を踏まえた、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問4 文章中の下線部について述べた文として、適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。地中海だけでなくトングクトゥやマリンディなどに関する地理的理解など、包括的な知識が求められる。

問5 『地中海』から作成された「地図」から読み取れる内容を基に、その時期に起こった出来事と、書簡の到着に要する期間について、正しい組合せを選択する問題。「メディチ家の拠点」がフィレンツェであることを踏まえ、さらにフィレンツェの位置を地図上で正確に示す技能、そして、到着に要する期間を地図上の情報から収集・選択する技能が求められるなど、複数の知識・技能を包括的に問う良問。

問6 文章中の空欄に入れる語と文について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。レパントの海戦が与えた、その後の地中海海域における影響など、包括的な知識が求められる。

#### 第4問 歴史資料の吟味

問1 文章中の空欄に入れる語と、著者が「ロシアのくびき」という表現を用いた意図について、正しい組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等の問題。文章と資料から読み取れる19世紀に関する情報を基に、14世紀の歴史に関する包括的な知識を踏まえ、著者の意図を類推することが求められる。

問2 問1と連動して、イギリスの態度の背景となったと考えられる19世紀の出来事について適当な文を選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。資料から、グレートゲームにおけるイギリスの態度を考察することが求められる。さらに、歴史事象相互のつながりに着目して、論理整合性に基づいて、イギリスの態度の背景となったロシアの出来事を判断することが求められる点で、良問である。全ての選択肢が正命題で構成されている点も評価が高い。

問3 アフガニスタンの歴史について、適当な文を選択する問題。事実に知識を問う問題。

問4 文章中に登場するローマの独裁官または皇帝の事績について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。ローマの独裁官や皇帝が複数の人物が登場するため、文章全体を丁寧に読みとる技能と、古代ローマ史についての包括的な知識が求められる。下線を用いなかったことで、文章全体を丁寧に読み取らせることに成功している。

問5 ローマ衰退の原因の背景として推測される歴史上の出来事について、適当な文を選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。文章から必要な情報を読み取った上で、古代ローマ史に関する知識をふまえ、ローマ衰退の根拠として推測される出来事を、論理整合性に基づいて判断する力を求める良問。単純に知識として「ローマ衰退の原因は何か」が求められているのではなく、文明の衰退を概念的に捉える力が求められる。**25**と同様に、下線を用いなかったことで、文章全体を丁寧に読み取らせることに成功している。

問6 『ローマ人盛衰原因論』の著者について、適当な文を選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。文章中にある『法の世界』から、知識だけで解くことも可能かもしれないが、文章全体を丁寧に読みとった上で、概念的に啓蒙思想を捉えていることで正答にたどり着く良問。

#### 第5問 世界史上の人権侵害や差別について

問1 文章中の空欄に入れる二つの語について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。民主主義体制、独裁体制という政治体制の概念的理解が求められる。

問2 人権の歴史について、誤っている文を選択する問題。事実に知識を問う問題。誤選択が、人権とは直接関係のない南アフリカ共和国に関する年代が判断材料となるのがやや惜しま

れる。人権の内容についての歴史的な包括的知識や、人権に関する概念の変容などを問うなどの工夫が求められるところである。

問3 メモの空欄に入れる文として適当なものを選択する問題。会話文やグラフの丁寧な読取りを前提とし、さらにグラフの推移が意味することを、歴史上の事象についての知識と関連付けて、考察する力を求める思考力・判断力・表現力等の良問。

問4 文章中の空欄に入れる戦争後の、ラテンアメリカにおけるアメリカ合衆国の影響拡大について、適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。

問5 文章中の空欄に入れる二つの語句について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。帝国主義の概念的理解だけでなく、当時の欧米諸国が植民地に対して抱いていた「文明化の使命」についても、風刺画から読み取った情報を抽象化することも求められており、概念的理解が問われている。

問6 アメリカ合衆国における差別やその解消について、誤っている文を選択する問題。知識・技能を問う問題。他の選択肢は全て正命題であり、正確に判断するためには包括的な知識が求められる。

### 3 分量・程度

分量は、60分の試験時間に見合った適切なものである。難易度も標準であった。

知識・技能を問う問題においては、事實的知識だけで解ける問題 **1** や **7** など散見されたが、**13** のように地理的認識と関連付ける問題や、**25** のように丁寧な資料の読み取りを前提とした包括的な知識を問う問題まで様々なタイプの問題があり、問題作成者の工夫が感じられた。

また、共通テストになってから顕著な傾向である、概念的理解を求める問題としては、**12** は「スルタン」、**15** は「絶対王政」、**17** は「朝貢」、**26** は「帝国の衰退」、**28** は「独裁体制」、**32** は「帝国主義」などの概念を取り上げていた。結果として概念用語の確認にとどまった問題もあり、発問の工夫が求められるものも見られるが、**12** は文章の丁寧な読み取りの上に「スルタン」の概念的理解と関連付ける必要があり、よく考えられた良問と評価できる。

思考力・判断力・表現力等を問う問題としては、**3** のように、「女性の権力者」に関するゼミでの会話から、どのような女性について調べるかを想定して適切な人物を選ぶという意欲的な問題作成を歓迎したい。選択肢の人物に関する単純な知識ではなく、「君主でもその配偶者でもない女性」を概念化した上で正解にたどり着くという問題構成を取っていて評価できる。

第4問中間Bは、モンテスキューの『ローマ人盛衰原因論』をテーマにした問題である。下線を設定しないことで、文章全体を丁寧に読むことを求め、各設問においては、いずれも文章読み取りと、世界史の知識を関連付けるなど、知識の活用が求められた。最後の **27** は啓蒙思想を概念的に理解しているかを問う設問で、中間全体の構成がよく考えられた良問であった。文章の分量も適切であり、受験者は取り組みやすかったと思われる。中間全体から、リード文の最後に述べられているように「歴史を論理的に説明しよう」とするメッセージを受け取った。

### 4 表現・形式

会話文、資料、地図、グラフ、風刺画など、多様な資料が出題されていて、資料を基に歴史的思考力を問うという問題作成者の意図を強く感じる形式であった。

センター試験時代と違って、出された資料やグラフは必ず問題に関連付いており、読み取りの技能も必要とされる問題が多かったことは評価できる。

また、**18** は、地図と文章の記述、問題が有機的に関連しており、地理的の用件がもつ歴史的意義

を問う問題に昇華されていた良問であった。

20も、ブローデルの『地中海』から作成された興味深い地図を活用し、位置の確認にとどまらない地図情報の読み取りの技能と、歴史の知識を組み合わせることで正解にたどりつく構成で、工夫がみられた。今後もその方向性を継続してほしいと考える。

第5問中間Aはダッハウ強制収容所跡を訪問中の教授と学生の会話、中間Bは風刺画を基にした歴史の授業での先生と生徒の会話で、いずれも会話文の必然性があり、問題にも会話文が活用されている。

## 5 ま と め（総括的な評価）

共通テストもプレテストから数えると5回目を数え、資料を活用した問題、授業やゼミの活動を再現した会話文もすっかり定着した感がある。それだけに、会話文の必然性や、資料と問題に有機的な関連性がより求められるようになったが、今回の世界史Bはおおむね、どの問題も資料を有効に活用していた。

また、20で使われたブローデル『地中海』の地図、30のナチ強制収容所に収容されていた人数のグラフやメモ、33のウッド將軍の風刺画などの資料は、これまであまり目に触れることのなかった資料でもあり、授業を行う高等学校現場の教員としては非常に興味深かった。それらの資料を活用して、新たな授業を展開したい、と思えるような資料が豊富に出題されており、今後の授業づくりへの貴重な視座を得た。

例えば、20で使われた『地中海』から作成された、書簡の到着期間を示す地図を活用することで、生徒は中世ヨーロッパにおける地域間交流について、より深く理解できるだろう。

また、ナチズムの授業をする際に、30のグラフを提示するだけでなく、メモを提示することで、「グラフの数値の背後には多くの死があり、そこまで思考すれば、ホロコーストが激化した歴史をより深く理解できるだろう」というメモの言葉を基に、生徒は現代的諸課題につなげて探究していくだろう。

今回の共通テストには、高等学校の普段の授業を改善するためのヒントがちりばめられていたように思う。今後ともぜひ、高等学校の現場の背中を押してくれるような作問姿勢を続けてほしい。

最後に、より良い歴史教育のために、よく考えられた良問を作成された委員の先生方に感謝申し上げます。